



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月8日

上場会社名 株式会社ジャムコ 上場取引所 東
 コード番号 7408 URL <https://www.jamco.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 阿部 俊之
 問合せ先責任者(役職名) 常務執行役員 (氏名) 後藤 健太郎 (TEL) 042-503-9145
 四半期報告書提出予定日 2022年11月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	17,042	△7.8	281	—	354	—	655	—
2022年3月期第2四半期	18,477	△28.5	△511	—	△687	—	△47	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 933百万円(—%) 2022年3月期第2四半期 41百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	24.42	—
2022年3月期第2四半期	△1.76	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	100,450	12,028	11.6
2022年3月期	93,651	11,095	11.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 11,637百万円 2022年3月期 10,763百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	49,800	27.4	2,780	—	1,860	—	2,160	—	80.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳しくは本日公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	26,863,974株	2022年3月期	26,863,974株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	39,007株	2022年3月期	38,964株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	26,825,004株	2022年3月期2Q	26,825,010株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

当社は、2022年11月24日に機関投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料につきましては、当社コーポレートサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13
(重要な後発事象)	15
3. その他	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）拡大の影響から正常化に向けて持ち直しの動きがみられたものの、ウクライナ問題の長期化懸念、原油価格の高騰、原材料価格の上昇などにより依然として不透明な状況が続きました。このようななかで、米国の金融引き締めによる急激な為替変動により、ドル円為替相場は対米ドル円レート122円台から144円台後半で推移しました。

航空輸送業界では、国内線需要の回復に加え、各国の入国制限の緩和や撤廃などにより国際線需要についても回復してきていることから、エアラインでは運休していた機体をサービスに戻す動きやアフターコロナを見据えた機体発注などの動きが見られました。又、航空機メーカーにおいても航空旅客需要の回復に伴い、一部機種では受注が増加しました。

このように、航空旅客需要の回復がみられるなかで、当社グループでは、需要回復に対応すべく、グループ外出向していた社員を帰任させるとともに、新卒採用活動を開始しました。又、製造工程においては、今後の更なる需要回復に備え、業務効率改善活動を継続するとともに、フィリピン工場有能力・機能拡張計画や国内外のサプライチェーンの強靱化に着手しました。更に、サステナビリティへの対応にも積極的に取り組みました。

航空機内装品等製造関連においては、航空旅客需要の回復に伴い、保有機体を活用するためのメンテナンス部品や客室改修の需要増加がみられ、これらに対応すべく、生産体制強化に取り組みました。又、お客様が航空機に搭乗する際に抱く不安を少しでも解消できるように、清潔で衛生的なキャビン作りのための製品開発を行い、ギャレー、ラバトリー、シート等への展開を見据えた研究・提案を行いました。

航空機シート等製造関連においては、収益力の高いビジネスクラス・シート「Venture」の他機種展開などに加え、次期ビジネスクラス・シート「Quest for Elegance」の開発にも取り組みました。

航空機器等製造関連においては、生産性改善の取組みを行うと共に、熱可塑CFRPを活用した航空機用軽量機体部材の開発やCFRP部材の航空機分野以外への展開を進めました。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続すると共に、エアライン、官公庁向け整備の受注に努め、安定した収益を上げるため事業基盤の強化に取り組みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高 17,042百万円（前年同四半期比 1,435百万円減）、営業利益 281百万円（前年同四半期は、営業損失 511百万円）、経常利益 354百万円（前年同四半期は、経常損失 687百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益 655百万円（前年同四半期は、親会社株主に帰属する四半期純損失 47百万円）となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間末に第3四半期連結会計期間以降の完成工事に対する工事損失引当金を 3,833百万円計上しております。この工事損失引当金による期間損益への影響は、当第2四半期連結会計期間において売上原価 135百万円の増加（第1四半期連結会計期間末の工事損失引当金は 3,698百万円）、又、当第2四半期連結累計期間においては売上原価 4百万円の増加（2022年3月期末の工事損失引当金は 3,828百万円）となりました。

グループ全体の販売費及び一般管理費、営業外損益、特別損益の状況は次のとおりです。

販売費及び一般管理費は、人件費、販売手数料の増加などにより 3,793百万円（前年同四半期比 142百万円増）となりました。

営業外損益は、米国金利の上昇などにより支払利息が増加しましたが、為替相場が前連結会計年度末よりも円安で推移し為替差益が増加したことなどにより 73百万円の益（前年同四半期は、175百万円の損）となりました。

特別損益は、一時帰休による固定費等の操業費用を新型コロナウイルス感染症関連損失として 75百万円を計上しましたが、米国における雇用維持を目的とした助成金等の助成金収入として 117百万円を計上したことなどにより、37百万円の益（前年同四半期は、300百万円の益）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

[航空機内装品等製造関連]

当事業では、前年第1四半期連結会計期間に計上した顧客仕様変更に伴う追加売上の反動やボーイング787型機の生産調整によりギャレー及びラバトリーの出荷が減少したことなどから、前年同四半期に比べ売上高は減少しました。一方、経常利益については、売上高は減少したものの、運航機数の増加によりエアライン向けスペアパーツ販売が増加したこと、業務効率改善の効果、及び円安による為替差益の発生などから増加しました。

この結果、航空機内装品等製造関連は、売上高 10,809百万円（前年同四半期比 1,080百万円減）、経常利益 2,098百万円（前年同四半期比 1,246百万円増）となりました。

[航空機シート等製造関連]

当事業では、ボーイング787型機の生産調整によりビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が翌期以降に繰り延べられたことなどから、前年同四半期に比べ売上高は減少しました。又、経常損益については、円安によるドル建てコストの上昇などにより経常損失となりました。

この結果、航空機シート等製造関連は、売上高 461百万円（前年同四半期比 452百万円減）、経常損失 1,696百万円（前年同四半期は、経常損失 1,390百万円）となりました。

[航空機器等製造関連]

当事業では、民間航空機向け製品の炭素繊維構造部材や航空機エンジン部品の出荷が増加したことなどから前年同四半期に比べ売上高は増加しました。又、経常損益については、売上高が増加したことなどから経常損失は改善しました。

この結果、航空機器等製造関連は、売上高 2,164百万円（前年同四半期比 220百万円増）、経常損失 101百万円（前年同四半期は、経常損失 247百万円）となりました。

[航空機整備等関連]

当事業では、機体整備において一部プログラムの完成工事が前年同四半期に集中した反動により売上高は減少しました。又、経常利益については、売上高の減少などにより減少しました。

この結果、航空機整備等関連は、売上高 3,606百万円（前年同四半期比 123百万円減）、経常利益 52百万円（前年同四半期比 60百万円減）となりました。

[その他]

その他の区分には、連結子会社の株式会社オレンジジャムコの事業を含んでおり、当社施設内の清掃及び補助的作業等セグメント間の内部取引が中心です。

この結果、その他の区分では、売上高 1百万円（前年同四半期比 1百万円増）、経常利益 2百万円（前年同四半期は、経常損失 14百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産・負債・純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は100,450百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,799百万円増加しました。内、流動資産については、受取手形、売掛金及び契約資産の減少(前期末比4,309百万円減)等がありましたが、仕掛品の増加(前期末比5,978百万円増)、原材料及び貯蔵品の増加(前期末比2,951百万円増)等により流動資産合計で前連結会計年度末に比べ5,887百万円増加しました。又、固定資産については、有形固定資産の増加(前期末比264百万円増)、無形固定資産の増加(前期末比181百万円増)等により固定資産合計で前連結会計年度末に比べ911百万円増加しました。負債合計は88,421百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,865百万円増加しました。主な要因は、短期借入金の増加(前期末比5,817百万円増)等によるものです。

純資産合計は12,028百万円となり、前連結会計年度末に比べ933百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益などによる利益剰余金の増加等によるものです。この結果、自己資本比率は11.6%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の増減は、以下に記載のキャッシュ・フローにより、1,476百万円キャッシュ・インフローとなりました。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、1,097百万円のキャッシュ・アウトフローとなりました。これは、棚卸資産の増加等によるものです。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により、673百万円のキャッシュ・アウトフローとなりました。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、2,525百万円のキャッシュ・インフローとなりました。これは、金融機関からの借入等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

売上高は、航空機内装品等製造関連・航空機シート等製造関連において、ボーイング787型機向けの出荷再開や一部客室改修プログラムが当初計画より遅れたことなどから減少が見込まれます。

一方、利益面は、売上高の減少が予想されますが、運航機数の増加に伴いエアライン向けのスペアパーツ販売が増加していること、業務効率改善による原価低減策の効果、及び為替レートが想定より円安に推移していることなどから通期連結業績予想値を修正いたします。

なお、2022年9月30日付「連結子会社の固定資産の譲渡に伴う特別利益の計上に関するお知らせ」のとおり、第3四半期連結会計期間に固定資産の譲渡益として約446百万円を特別利益に織り込んでおります。

又、通期連結業績予想の前提となる第3四半期連結会計期間以降の為替レートは115円/米ドルから130円/米ドルに変更しております。

詳しくは本日公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,276,034	11,099,353
受取手形、売掛金及び契約資産	19,199,303	14,889,539
商品及び製品	2,431,164	1,757,436
仕掛品	20,162,684	26,141,321
原材料及び貯蔵品	18,152,211	21,103,520
その他	2,169,978	2,310,946
貸倒引当金	△120,235	△143,105
流動資産合計	71,271,141	77,159,014
固定資産		
有形固定資産	12,425,792	12,690,532
無形固定資産	1,282,559	1,464,434
投資その他の資産	8,671,614	9,136,129
固定資産合計	22,379,965	23,291,095
資産合計	93,651,107	100,450,110
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,248,801	4,797,782
電子記録債務	2,665,270	2,234,389
短期借入金	48,156,430	53,973,910
1年内返済予定の長期借入金	960,000	1,360,000
未払法人税等	117,705	277,337
前受金	6,241,231	6,688,073
賞与引当金	852,915	962,492
工事損失引当金	3,828,854	3,833,402
その他	3,836,978	3,624,694
流動負債合計	70,908,187	77,752,082
固定負債		
長期借入金	2,310,000	1,280,000
退職給付に係る負債	6,540,444	6,538,799
損害補償損失引当金	912,645	1,079,651
製品保証引当金	1,166,789	1,166,789
その他	717,953	604,383
固定負債合計	11,647,831	10,669,624
負債合計	82,556,019	88,421,707

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,359,893	5,359,893
資本剰余金	4,318,925	4,318,925
利益剰余金	645,664	1,300,833
自己株式	△31,205	△31,262
株主資本合計	10,293,277	10,948,389
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	169,773	156,481
為替換算調整勘定	198,082	442,960
退職給付に係る調整累計額	102,624	89,206
その他の包括利益累計額合計	470,480	688,648
非支配株主持分	331,330	391,364
純資産合計	11,095,088	12,028,403
負債純資産合計	93,651,107	100,450,110

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	18,477,909	17,042,796
売上原価	15,338,073	12,967,715
売上総利益	3,139,835	4,075,081
販売費及び一般管理費	3,651,587	3,793,750
営業利益又は営業損失(△)	△511,751	281,330
営業外収益		
受取利息	3,962	13,984
受取配当金	1,140	2,009
為替差益	114,980	627,198
持分法による投資利益	41,276	-
受取保険金	38,065	7,932
助成金収入	16,293	34,126
その他	55,041	24,435
営業外収益合計	270,761	709,686
営業外費用		
支払利息	245,709	491,981
持分法による投資損失	-	35,207
支払補償費	168,280	8,765
その他	32,494	100,165
営業外費用合計	446,485	636,120
経常利益又は経常損失(△)	△687,475	354,897
特別利益		
助成金収入	511,339	117,092
割増退職金戻入額	1,444	-
損害補償損失引当金戻入益	137,791	-
特別利益合計	650,575	117,092
特別損失		
固定資産処分損	26,652	4,120
新型コロナウイルス感染症関連損失	213,476	75,165
割増退職金	10,876	-
事業整理損	99,294	-
特別損失合計	350,300	79,286
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△387,200	392,703
法人税、住民税及び事業税	61,821	194,843
法人税等還付税額	△51,987	-
法人税等調整額	△350,322	△458,475
法人税等合計	△340,488	△263,631
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△46,711	656,335
非支配株主に帰属する四半期純利益	497	1,166
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△47,208	655,169

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△46,711	656,335
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	50,609	△13,291
為替換算調整勘定	24,098	303,746
退職給付に係る調整額	13,347	△13,418
その他の包括利益合計	88,056	277,036
四半期包括利益	41,344	933,371
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	37,850	873,337
非支配株主に係る四半期包括利益	3,493	60,034

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△387,200	392,703
減価償却費	1,010,563	1,048,318
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△208,395	△96,925
引当金の増減額(△は減少)	214,687	300,303
受取利息及び受取配当金	△5,102	△15,993
支払利息	245,709	491,981
為替差損益(△は益)	30,981	453,458
持分法による投資損益(△は益)	△41,276	35,207
新型コロナウイルス感染症関連損失	213,476	75,165
助成金収入	△511,339	△117,092
売上債権の増減額(△は増加)	5,051,967	4,751,723
棚卸資産の増減額(△は増加)	△227,643	△6,764,398
仕入債務の増減額(△は減少)	△671,844	△48,421
前受金の増減額(△は減少)	1,844,182	△302,291
未払又は未収消費税等の増減額	△24,584	△132,144
その他	193,762	△723,823
小計	6,727,944	△652,229
利息及び配当金の受取額	5,075	15,923
利息の支払額	△238,060	△455,927
法人税等の支払額	△34,647	△11,587
法人税等の還付額	85,393	5,841
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,545,704	△1,097,979
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△273,167	△393,365
有形固定資産の売却による収入	6,706	2,454
投資有価証券の取得による支出	△300	△537
貸付けによる支出	△8,640	△1,840
貸付金の回収による収入	410	2,326
定期預金の増減額(△は増加)	219,600	△133,970
その他	△58,058	△148,264
投資活動によるキャッシュ・フロー	△113,448	△673,197
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	40,197,120	40,815,810
短期借入金の返済による支出	△41,604,120	△37,484,730
長期借入れによる収入	300,000	-
長期借入金の返済による支出	△1,000,000	△630,000
リース債務の返済による支出	△181,992	△175,873
自己株式の取得による支出	-	△56
配当金の支払額	△1,270	△9
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,290,263	2,525,140
現金及び現金同等物に係る換算差額	65,741	722,946
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,207,734	1,476,909
現金及び現金同等物の期首残高	3,946,665	8,174,344
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,154,399	9,651,253

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	航空機 内装品等 製造関連	航空機 シート等 製造関連	航空機器等 製造関連	航空機 整備等関連	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,890,088	913,789	1,943,876	3,730,154	18,477,909	-	18,477,909
セグメント間の内部 売上高又は振替高	191,467	-	2,480	5,665	199,612	32,006	231,618
計	12,081,556	913,789	1,946,356	3,735,820	18,677,522	32,006	18,709,528
セグメント利益 又は損失(△)	851,134	△1,390,465	△247,168	113,728	△672,770	△14,704	△687,475

(注) 「その他」の区分には、関係会社の(株)オレンジジャムコの事業を含んでおります。(株)オレンジジャムコは企業の社会的責任の一つである障がい者の雇用促進のための特例子会社であり、当社施設内の清掃及び補助的作業を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	△672,770
「その他」の区分の利益	△14,704
四半期連結損益計算書の経常利益	△687,475

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	航空機 内装品等 製造関連	航空機 シート等 製造関連	航空機器等 製造関連	航空機 整備等関連	計		
売上高							
外部顧客への売上高	10,809,352	461,069	2,164,574	3,606,595	17,041,591	1,205	17,042,796
セグメント間の内部 売上高又は振替高	187,059	-	1,788	18,538	207,385	59,744	267,129
計	10,996,411	461,069	2,166,362	3,625,133	17,248,977	60,949	17,309,926
セグメント利益 又は損失(△)	2,098,008	△1,696,903	△101,497	52,786	352,393	2,503	354,897

(注) 「その他」の区分には、関係会社の(株)オレンジジャムコの事業を含んでおります。(株)オレンジジャムコは企業の社会的責任の一つである障がい者の雇用促進のための特例子会社であり、当社施設内の清掃及び補助的作業を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	352,393
「その他」の区分の利益	2,503
四半期連結損益計算書の経常利益	354,897

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(固定資産の譲渡)

当社の連結子会社であるJAMCO SINGAPORE PTE LTD. が保有する固定資産を譲渡し、2023年3月期第3四半期連結累計期間において特別利益(固定資産売却益)を計上いたします。

1. 譲渡の理由

当社は、2020年9月25日開催の取締役会において連結子会社であるJAMCO SINGAPORE PTE LTD. を解散し、清算することについて決議し、清算手続きを進める中で、当該子会社が保有する下記固定資産の譲渡をいたしました。

2. 譲渡資産の内容

資産の内容及び所在地	譲渡価額	帳簿価額	譲渡益(※2)
建物 No.8 Loyang Lane, Singapore 508915	(※1)	(※1)	約446百万円

※1 譲渡価額、帳簿価額は、譲渡先の意向により開示を控えさせていただきますが、譲渡価額は市場価格を反映した適正な価額となっております。

※2 譲渡益は、譲渡価額から帳簿価額及び譲渡に係る諸費用を控除した金額を、1シンガポールドル95円で円貨換算した概算額です。

3. 譲渡先の概要

譲渡先については、譲渡先の意向により開示を控えさせていただきます。なお、譲渡先と当社の間には、資本関係、人的関係、取引関係及び関連当事者として特筆すべき事項はありません。

4. 譲渡日

2022年10月5日

5. 当社業績に与える影響

当該固定資産の譲渡に伴い、当社は2023年3月期第3四半期連結累計期間において、約446百万円を固定資産売却益として特別利益に計上する見込みです。

3. その他

該当事項はありません。